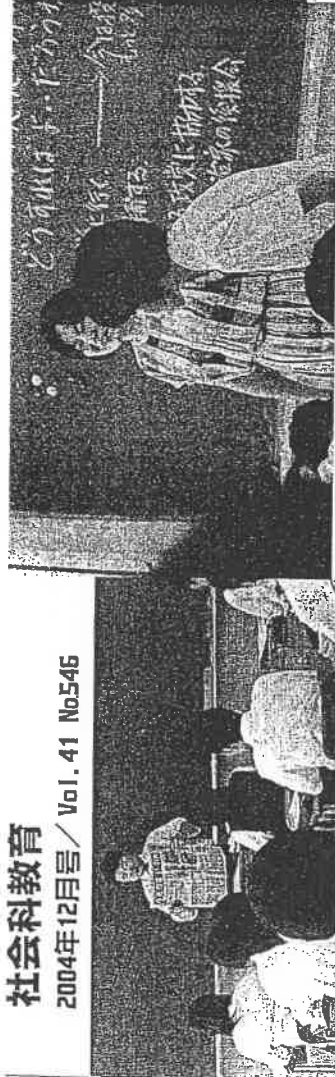
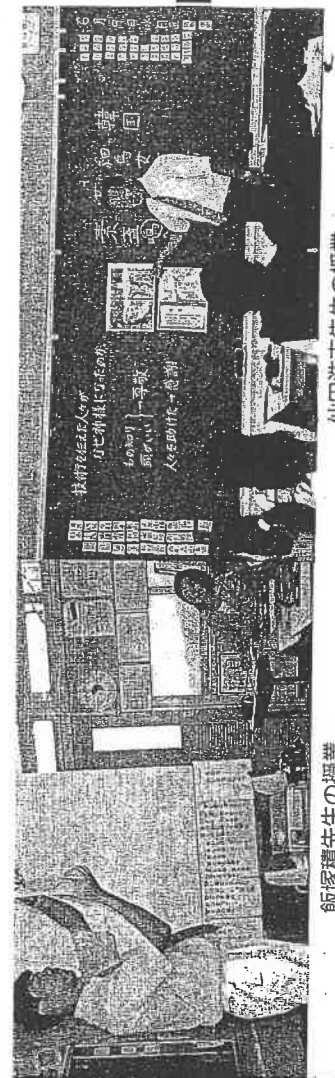




竹崎葉子先生の授業



飯塚清先生の授業

仙田浩志先生の授業

特集 社会科授業で“どんな学力”を保障するか

連載講座

- 学力低下はどんな授業で生み出されるのか 回
- 教室を越え学校を越えた学びと評価を
- 中学教師がする授業の勝負どころ 回
- 熱中し、かつ学力を保障する授業を
- 基礎基本を意識した授業づくりのヒント 回
- 地図帳って面白い！「地図帳検索スキル」を教える
- 子どもが好きなウソ、ホント、雑学事典 回
- 案内から過渡問題学習を
- PAX版 社会科基礎用語の学習スキル 回
- 昔ながら(三・四・五) 昔の人々の暮らしについて調べ、生活の変化を考える
- モノから世界が見える 回
- 増加する輸入養殖サケと恵みの海「北太平洋」
- 地域を学ぶ町づくりの感動ネタ 回
- 水の中核にした町づくり、地域と行政が一体となった町づくり
- わが国の情報「ここここ」の授業あり 回
- 倉根豊の巻
- 社会科教科書づくりへの私の注文 回
- 社会の形成者を自覚させる手立て ①

安藤 博次	110
大森 和行	116
河田 孝文	120
河原 和之	124
師尾昌代子	125
宮崎 正勝	128
江口 優彦	130
加藤 寿朗	132
原田 智二	134

〈往復書簡で小学校教師と中学校教師がバトル〉

- 小学教師発：中学校授業で、せつかく育てた〇〇をダメにされた 70
- 小学教師の返信：中学校授業でせつかく育てた問題解決への意欲をダメにされた……佐 真 一郎 名
- 中学教師の返信：生徒の意欲をダメにしたものは、説明的授業ではない……

授業でどんな学力を保障するか―着地点と3学期の追い込みポイント

3 年 社会科	高武 徹也	76	5 年 社会科	福井 悦男	72
4 年 社会科	松田 孝	84	中学地理	藤原 徹	80
6 年 社会科	石川 運孝	92	中学公民	原 徹	86
中学歴史					

冬休み宿題：私のお薦め「オモシロ問題」

- 小学校の事例：三学期授業に役立つ時事問題に目をむけさせる宿題を……鈴木 鈴 一郎 名
- 小学校の事例：昔の人の願いがわかる！「おせち料理」「お雑煮」調べ……北村 善昭 彦
- 小学校の事例：冬休みならではの宿題「昔のくらし」調べて三学期も完璧！……岡田 健 彦
- 中学校の事例：二種類の問題を提案する……富士谷 晃 一郎 名
- 中学校の事例：冬休みテーママップ……山辺 慎太郎 名

鈴木 鈴 一郎 名	100
北村 善昭 彦	102
岡田 健 彦	104
富士谷 晃 一郎 名	106
山辺 慎太郎 名	108

〈往復書簡で小学校教師と中学校教師がバトル〉

- 中学教師発：なぜ小学校授業はもつと〇〇をしないのだ……68
- 中学教師の返信：「覚えることが楽しい」という子を育てて欲しい……染谷 幸 一
- 小学教師の返信：覚えることが楽しい子が小学校社会科に求められることなのか……稲井 智 義

社会科の「学び」授業―到達度の違いの現れ方と育成のヒント

関心・意欲・態度―到達度の違いの現れ方と育成のヒント	大森 英 彦	44
思考・判断―到達度の違いの現れ方と育成のヒント	森川 武 彦	47
観察の技能・表現―到達度の違いの現れ方と育成のヒント	猪瀬 武 彦	50
資料活用・技能・表現―到達度の違いの現れ方と育成のヒント	大前 宣 彦	59
知識・理解―到達度の違いの現れ方と育成のヒント	平松 孝 治 郎	62

棚橋フナと三本松フナを比較する視点・評価規準

- 楽しくて社会がわかる社会科―固有性と共通性の面から学力形成を……北 俊 夫

社会科の理念	佐長 健 彦	36
--------	--------	----

「都市化する地域社会」がわかる3年生単元「広島県づくり」の開発

- 発問・指示を明確にし、授業の組み立てを変える……岡崎 誠 司

授業化を読んで、科学的知識と子どもの経験知との結合	棚橋 健 彦	31
---------------------------	--------	----

棚橋フナへの授業化―私はどう取り組もうか

- 提案：社会科固有の役割を果たしてこそ優れた社会科授業になる……棚橋 健 彦

意見：学力開発への道を進むすぐれた授業	岩田 健 彦	20
意見：社会科学力の構造をめぐる議論―社会認識と社会的判断力―	正 一 彦	21
意見：生き方を教えるのではなく、生き方を自分で選択する力をつける授業を	桑原 敏 彦	22
意見：真の「社会科」を追究しよう	西尾 敏 彦	23
意見：知的好奇心を促す構造的な授業こそ	岩田 敏 彦	24
意見：指導案一のおまりの俗悪さと指導案二の上質の論理	向山 敏 彦	25
意見を読んで：社会科固有の役割を考えれば、社会科の守備範囲は狭まる	棚橋 健 彦	26

社会科にとって学力とは何か―と問われたら(アユエホ)

井田 仁康	伊東 亮三	鷲原 進	片上 宗一	谷口 和也	9
田淵五十生	西村 公孝	西脇 保幸	山口 正		

提案

社会科学固有の役割を果たしてこそ

「優れた」社会科授業になる

棚橋 健治



I 典型的な「優れた」社会科授業

(省略)

II 社会科学固有の学力を保障する授業

指導案一の授業の最大の問題点は、人物の生き方に共感させ、その生き方をわがものとさせるという道徳授業になっていることである。それは社会科で形成すべき学力とは異質である。社会科はその名の通り、社会をわからせる教科である。人物を題材としても、それによつてわからせるべきことは、その人物を通して見えてくるひとつの社会でなければならない。偉人の働きを強調して、その人物の生き方をとらえる力ではなく、社会の姿や変化をとらえる力をつけることが社会科の学力形成である。子どもたちに「学問的あるいは知的な関心を持って問題を真剣に考え、とさせる学習、子どもたちの「知的好奇心を高めていく」学習こそが学力を保障する社会科授業となりうる。

まな保護・奨励策を進め、特産品としての地位を獲得・維持するために、品質向上・保持に努めている。そして、産業として確立した後は、その収益を単に農民のものとするのではなく、藩のものとするために統制策をとる。

江戸時代を代表する農業書である宮崎安貞『農業全書』と大蔵永常『広益国産考』を読み比べると、江戸時代前半に書かれた前者が主に米作について述べ、後半に書かれた後者が米以外の特産物の生産奨励について述べている。江戸時代中期における社会の変化を反映していると言える。

高松藩では、米で食べていけなくなつて砂糖で食べていこうとする農民の力と、それを専売して領主経済に取り込もうとする領主側の力とが結合することにより、新しい社会へと変貌した。それこそ、周慶ひとりの報恩の念や領

②当事者の気持ちで子どもが考える

具体的にはどのような授業になるのか。元の授業案との比較を容易にするために、周慶を題材とし、単元前半で関係遺跡の見学などを行っていることなどの設定を維持するという条件下での改善案の概略が指導案二である。

周慶の生き方をではなく、社会をわからせる授業にするには、まず、周慶を通して見えてくる社会を明らかにしなければならない。それは、江戸時代中期の高松藩というところに見られるひとつの特徴的な社会の姿である。

この時期は、石高制に基づく幕藩体制社会の変質期である。幕藩体制における農業政策の主眼は貢租米の増収と皆済であり、米作中心の勤農である。しかし、生産から完全に分離され都市に集住した武士やその物資調達を担った町人層の消費水準が次第に上がり、貢租米を換金して得た資金による生活

主の領民を思う慈悲心などに換言できるものではない社会の構造である。このような社会の姿は、周慶の働きがなぜ賞賛されたのかを子どもに探求させることによつて把握可能になる。

周慶は、用水路や橋を造つた偉人よりも採りあげる意味が大きい。社会の構造の大きな変化、すなわち、自給自足経済から商品貨幣経済へと移り、資本主義経済化する社会の変化が見えるからである。この変化は、東讃地域に限定的に起きた特殊なことではない。三本松の子どもにとっては、その周慶がたまたま自分たちの住む地方の先人だつたにすぎない。三本松の子どもに江戸時代の東讃をわからせることは、単に郷土をわからせることではない。

小学校四年のこの単元は、歴史を学ぶことが目的ではないので江戸時代の社会などわからなくてよいと言われる

や苦労などをわかり、郷土東讃地域を

資料の購入が増大する。そのような需要に応ずる商品性の高い生産が農村を変え、自給自足体制を崩していく。一八世紀半ばから一九世紀前半にかけて、多くの藩において特産物の生産が奨励されることは、このような新しい社会の出現と密接に関係している。そして、そのことが疲弊していた領国経済を再建する切り札になっていく。高松藩の砂糖づくりは、まさにこのような江戸時代の大きな社会の変化の典型的な事例となっている。

高松藩の財政は逼迫しており、周慶に砂糖づくりを命じた五代藩主頼恭の時代には五十万両という莫大な借金を抱えていた。しかし、幕藩体制の根幹である米の増産は、高松藩では土地狭小と水不足から限界であり、それを補うものとして砂糖に着目した。当初は産業として成り立たせるためにさまざま

かもしれない。しかし、どの学年のどの単元でも、常に社会（それがいつの時代のものでも）がわかる力をつけることこそ、社会科が社会科である根拠になる。社会科の学力保障とはそのようなことである。指導案二はそのような授業になっていないだろうか。

誌本授業についての分析は、日本教科教育学会第三回全国大会シンポジウム（一九九七年）で発表し、その概要は、学校教育研究会『学校教育』一〇四四号（二〇〇四年）に掲載されているので参照されたい。

〈主要参考文献〉

- ・香川県農業史編纂委員会『香川県農業史』香川県農業改良普及会、一九七七年。
- ・『日本農業全集 広益国産考 大蔵永常』農山漁村文化協会、一九七八年。
- ・村上 稔『東讃産業史』東讃産業史料保存会、一九八三年。

△広島大学大学院教育学研究科教授△

指導案一 第四学年社会科授業「讀枝糖業の父『向山周慶』—周慶のすばらしさをまとめよう—」

- 目標
- ・周慶が、「白糖」をさまざまな試行錯誤を繰り返したり、研究成果を生かしたりして完成した努力や工夫がわかる。
 - ・周慶の努力や工夫を人々の思いを織り込みながら絵物語に付け加え、ふくらませることができる。

終	結	展	開	導 入	授 教 ・ 学 習 活 動	子 ども が 習 得 し 得 る 知 識
	・向山神社保存会の人へのインタビューのテープを聴いてみよう。	〈砂糖づくり〉	○グループに分かれて、今までの調べたことを、農民の暮らしをみよ。 〈向山神社〉	○今日は、何について学習するのか。 ◎周慶とはどういう人か。 秘蔵の絵物語を完成できた。	T…学習課題を確認する。 P…事前に調べた内容を劇にして、演じる。 P…事前に調べた内容（向山神社や石碑の見学調査）を紙	（砂糖づくりについて） （向山周慶について） ・江戸時代のこの地方（東讃）では、雨が少なく日照が多いので、作物があまりとれない。農民は代官に助けを求めた。代官は農民の願いを殿様に伝え、殿様は農民に同情したが、どうしようもないと思った。 ・殿様は、水をあまり必要としない作物はないか考え、砂糖を思いつき、池田玄丈に研究を命じた。 ・玄丈が病で倒れたので、弟子周慶が継いだ。 ○農民はとても苦労していた。 ○周慶は農民たちに期待されていた。 ・向山神社には砂糖神様、向山周慶が祀られている。 ・高松にも同じ名前の神社があるのは、当時は同じ殿
					芝居にして発表する。 P…事前に調べた内容（砂糖工場の見学）を発表する。 ・ビデオの視聴 ・道具の真物の提示	・その領地だったから。 ・新しい機械が発明された。 ○私たちが、白砂糖を使えるのは周慶たちのおかげだ。 ・「しほり」は昔は杵で挽き、その後は牛に挽かせた。手を挟む事故が多発し、安永2年に××という人が新しい機械を発明した。 ・「煮詰め」では石灰を入れて中和させている。 ・「おし舟」では、石の重さでコロで押し出すところを工夫している。 ・「とき」では、割れにくいへうとして、桜の木を使っている。 昔は、砂糖の形を作るのに、機械ではなく木の道具「木型」を使っていた。 ○こうして作られる砂糖が農民の暮らしをよくした。
					T…周慶の業績の歴史的意味を説明する。 P…インタビューを聴取する。 T…録音されたインタビューを流す。	○江戸時代におこった砂糖づくりのおかげで、手袋や栗といった、今のこの地域の産業ができた。江戸時代のお話は今の産業につながっているんだ。 ・明治に入ってから、外国からやすすい砂糖が入ってきたために、讃岐の砂糖づくりはだめになったが、砂糖づくりで蓄えたお金で工業を興した。 ○周慶が砂糖づくりを研究したおかげで、裕福な農家がたぐさんできた。

（香川県小学校社会科教育研究会・大内町立三本松小学校他『新しい学力観に立つ社会科学習（第二九回全国社会科教育研究大会香川大会小学校部会紀要）』、一九九二年、ならびに公開授業の記録より執筆作成。）

目録 ○周旋中の働きで、砂糖を興業としてこがでて、砂糖を特産品に糖にして外で販売することにより、社会の变化がわかる。砂糖は、金品である生活に糖づくりに農具から、広まり、自給自足の生活から、お金の儲けるために作物を作り、必
要なものはお金で買つて貰ふことになる。

[illegible]